

痴呆性老人

アンケートの実施概要

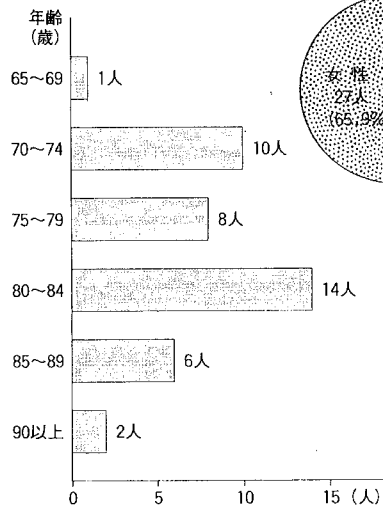
実施期間	平成4年12月～平成5年1月
調査実施者数	54人
回答者数	41人
	(男性14人、女性27人)

●性別・年齢別にみると…

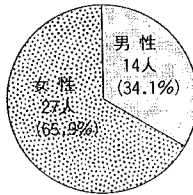
今回調査をお願いした54名は、福祉事務所や保健課などへ相談があり、痴呆性老人として把握された方々です。厚生省による在宅痴呆性老人の出現率は65歳以上の人の4.8%、さらに要介護痴呆性老人はそのうちの約15%とされていますから、新津市の場合76人程度と考えられます。

今回の調査結果では、痴呆性老人の約4割が入院を含め施設に入っていますが、残り6割の方は在宅で家族などの介護を受けながら暮らしています。

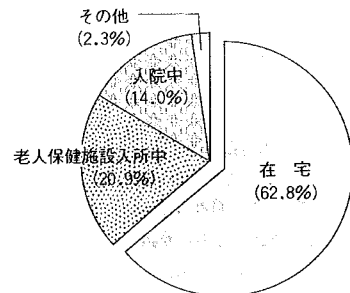
▶年齢別



▶性別



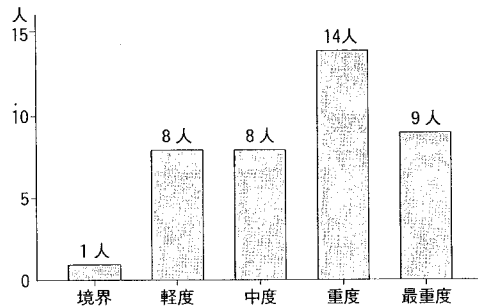
(1) 現在、在宅ですか、それとも入院中ですか。



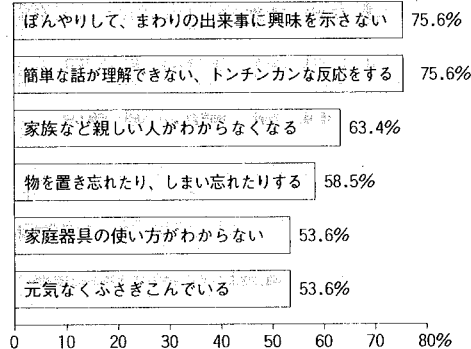
●痴呆の程度・受診状況

回答をいただいた半数以上の人が重度と思われる方でした。その症状をみると、「ぼんやりとして周りのことに興味を示さない」「親しい人がわからなくなる」などのほか、夜間の睡眠障害や妄想・幻覚なども多くの方に見られます。しかしながら約3割の方は病院などを受診しておらず、受診した場合でも半年以内に受診したという方は1割程度という調査結果が出ています。受診や相談にまだ抵抗感があるのでしょうか。

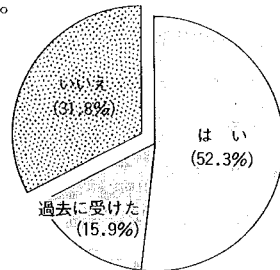
(2) 痴呆の程度



(3) 日常生活でよく見られる行動(複数回答)



(4) 痴呆について、病院などで診察を受けていますか。

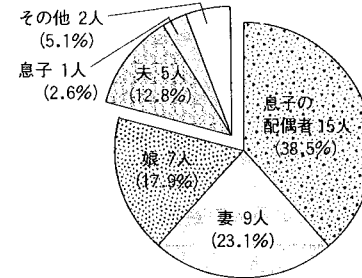


●介護の状況

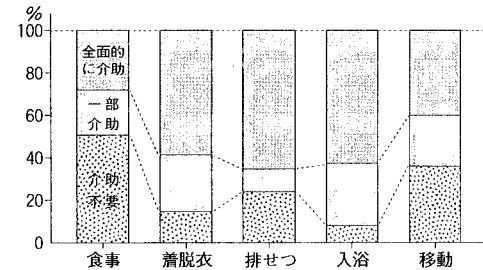
主に介護にあっている方は、約8割が息子の配偶者や妻あるいは娘などの女性であり、その役割の大きさとともに負担の重さがいずれも大きいです。

痴呆のある場合は体が動くので介助の必要性は低いと思われがちですが、衣服の着脱や排せつ、入浴が老人1人では難しく、半数以上の人が介助が必要な状態にあると答えています。また一方で、排せつ、入浴などの介助が大変であるという声は多くの介護者に共通しています。

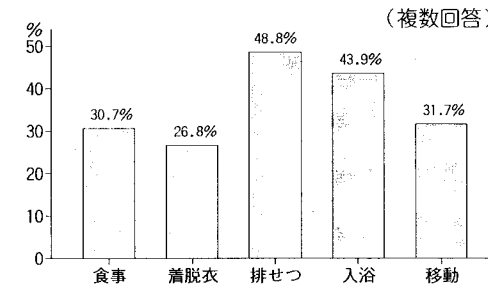
(5) 主に介護している人はどなたですか。



(6) 日常生活で介助が必要なことは何ですか。



(7) 介助する上で、大変なことは何ですか。



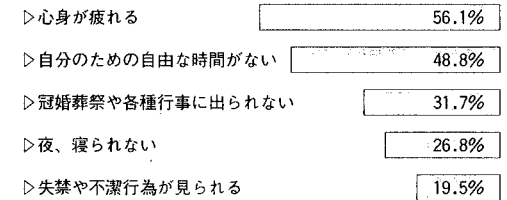
▶上記以外で大変なこと

夜、寝ばけて騒ぐ	26.9%
簡単な話が理解できなかったり、トンチンカンな反応をしたりする	24.4%
家庭器具の使い方がわからない	19.5%
物を置き忘れたり、しまい忘れたりする	17.1%
実際にはないものが見えたり、声が聞こえたりする	17.1%
興奮したり、大声を上げたりする	17.1%

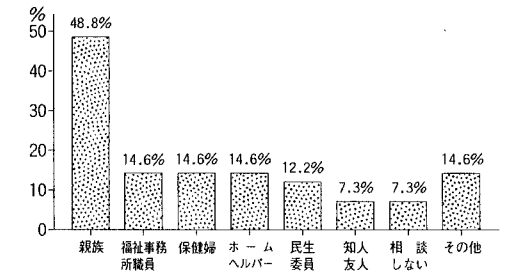
●介護で困っていること

介護で困っていることは何か調べてみると、1番多いのが「心身の疲れ」で、介護者の半数以上が大きな悩みとして抱えています。このほかに介護に拘束されるために自分の自由な時間がとれないことなどをあげています。

(8) 日常の介護で困っていること。(複数回答)



(9) 介護に困ったとき、同居人以外のだれに相談しますか。(複数回答)



●援助してほしいこと

(10) 痴呆老人を抱える家庭に対して援助してほしいことは何ですか。(複数回答)

